

知的障がい者サッカー女子日本代表 マッチレポート

日時：2025年6月1日(日)10:20キックオフ

対戦相手：v s 大和シルフィードアカデミー

場所：大和なでしこスタジアム



スコア

0 0-2 5
0-3

交代：後半6分 工藤OUT 大谷IN

【前半】

中を閉めてコンパクトな守備が出来ていた。相手からの縦パスの対応では後ろ向きの相手に対してしっかりアプローチをし何度もボールを奪うシーンがあった。→奪った後のボールを安全に繋ぐことが難しく相手ボールになってしまうことが多かったが、再度コンパクトに守ることが出来た。

全体の共有としてハーフラインを相手を超えてきたところから限定していくことを徹底することが出来ていた。失点シーンはセットプレーからスライドの遅れ(ボールウォッチャー)が原因でDFとDFの間を上手く使われていた。ただ前半にはボールを奪ってからカウンターが二度あり得点に近づいていた。オフサイドもありカウンターにならないシーンもあったが全体的に攻めの意識は見られた。

【後半】

後半始まってから10分間ボールを保持出来たり攻撃の回数が増えていた。

カウンター攻撃は二度もありあと一歩でシュートまで行けるところまでボールを運ぶことが出来ていた。攻撃回数は多かったもののオフサイドの数も同じように多くありFWのポジショニングや動き出しのタイミング、方向と出し手とのコミュニケーション(意思疎通)が今後の課題としてもあげられるゲームだった。失点シーンではオウンゴールもあったが、ビルドアップをチャレンジする意識からの失点もあったため、チャレンジの観点からみてすごくいい経験になっていた。

ラスト5分程度は前からハイプレスを行いボールを奪えるシーンもあった。ただ前のめりになっていることで剥がされてしまうところもあったため今後改善していきたいところではあった。

【成果と課題】

成果としては、事前にトレーニング・ミーティングから「守備は引き込んでから限定し奪ったらカウンター攻撃」の意識付けは行っており選手一人一人がコンパクトにプレーすることを理解し実践することができていた。ビルドアップに関しても消極的にならずキーパーから繋ぐチャレンジも見られた。課題としては失点にも絡んでいたセットプレーの守備を徹底し、ボール奪取後の保持が難しいこともあったので、攻撃のバリエーションや一人一人のサポートの質を上げることによってゴールに迎える回数を増やして行きたい。